

高槻の輪をさらに遅しく  
V G 槻輪の結成 10 周年  
おめでとうございます。  
心からお祝い申し上げます。

私は、3 年ほど前まで  
3 年間ほど一会員として  
みなさんと一緒に活動さ  
せてもらっていました。

高齢単身生活のご家庭  
の生活支援として庭の草  
取りや庭木の枝落とし、  
夏場の福祉施設での散水  
など、またパソコン教室  
での参加者への説明や参  
加者ご家庭での個別説明  
など、更には「わが町訪  
問」で会員のみなさんと  
一緒に沢山のところへ勉  
強・見学に行かせてもら  
いました。その一つ一つ  
が有意義な見識になった  
ことを喜んでいきます。

大岡会長には勝手に言  
って退会させてもらいま  
した。V G 槻輪は「みん  
なが強く一つにまとまっ  
てコツコツと高槻の、ま  
ちづくり、に貢献してい  
く」という行動理念に沿  
って着実に活動されてい  
ます。

今後とも益々のご発  
展・躍進をご祈念すると  
共に期待して止みません。  
V G 槻輪 O B 坂本 勝

わたしの、雑記帳、より  
【ボランティア活動】

高槻の住民になって  
から 40 年余りになりま  
す。

方位学の書物に依ると、  
大阪から京都方面は鬼門  
；、らしくて都市として  
の価値は稀薄だったとか。  
然し高度成長を担って  
いる方達の住居が必要に  
なり、高槻に白羽の矢が  
放たれ、建築ブーム到  
来？ドンドン家屋が建て  
られました。

人口は増え、加えて第二  
次ベビーブーム到来？で  
子供も沢山になりました。  
児童数も多くなり、新し  
く小学校が建てられ、活  
気ある都市として発展し  
ました。

V G 槻輪の会員となり、  
我が街を探索する度に新  
しい発見があります。

由緒ある高槻、新しい雰  
囲気のある高槻、住民一  
人一人が力を併せて我が  
街を支えて行きましょう

【音楽の持つ力】

作詞作曲歌手の小椋桂  
氏のご自身の体験を話し  
ていらつしやいました。  
ご息が中学校の時に若  
年脳梗塞にかかって、意  
識不明の症状で病院のベ

ッドに横たわり状態：小  
椋桂さんはどんなに辛か  
ったでしょう。ある日小  
椋氏がご自身の作曲され  
た歌を歌っていらした。

その時病床のご息が歌  
い出されて。しっかりと  
た声で、歌詞もハッキリ  
して：小椋氏は驚きと喜  
びで、ただ一生懸命歌わ  
れたそうです。ご息は  
日に日に快復されて社会  
人となり、ご家庭も持た  
れた。

戦時中南方の島の捕虜  
収容に英米連合軍が収監  
されていきました。ある日  
監視役の日本の兵士が、  
植生の宿、を口ずさんで  
いたら、捕虜兵も共に歌  
い、友人となった。

この事実は後日、映画に  
もなりました。

音楽は全人類の共通語で  
す。悲しみを抱えている  
人が周りにいらしたら静  
かに傍らで歌ってあげま  
しょう。喜びで感激して  
いる人が、いらしたら、  
一緒に笑いながら声を張  
り上げて歌いましょう。  
V G 槻輪 O G 山本矩子



第 1 回の  
「わがまち紹介」  
の思い出

今から 10 年前、高槻市  
主催の「まちづくり塾」  
の講習会を受講して、会  
を結成するにあたり、「ま  
ちづくりのボランティア  
活動って何をしたらいい  
のだから」と長い時間話  
あったことを思い出しま  
す。まちづくりをするに  
当たって、自分の住んで  
いる、まち、を知っている  
だろうか。自分の住んで  
いるまちを知らないで、  
何ができるだろうかなど  
話合った。

まず、我がまち・自分の  
住んでいるまちを知りた  
い、ことから、わがまち  
紹介、という名称で企画  
して進めることになった。  
活動としては、毎月 1 回、  
2 ～ 3 時間程度とし、近  
くから始めようと言うこ  
とになり、まず会員が住  
んでいる、まち、を案内す  
ることになった。会員以  
外の一般の方にも参加を  
呼びかけることにした。

まず第 1 回目として、  
会設立の翌月（12 月）か  
ら始めようと決めた。  
その時一番に名乗り出て  
くれたのが松井昇氏で

「高槻城近辺を案内しま  
しよう」と言ってくれた。  
これで「わがまち紹介」  
はスタートできるねと言  
ったら、顧問の宮津昭氏  
から、「1 ヶ月先の計画を  
考えるのが普通だが、継  
続して実施する為には最  
低 2 ヶ月差先までの計画  
を決めた方がよい」との  
アドバイスを受け、第 2  
回は正月（1 月）に富田  
を大岡が案内しました。  
と決めスタートしました。

松井昇さんの計画で、大  
手町「江戸時代の面影が  
残る町並み」↓高槻の歴  
史がわかる「高槻市立し  
るあと歴史館」↓憩いの  
場とロマンを見いだせる  
「城跡公園」↓昔の生活  
の面影がある「歴史民族  
資料館」↓身の清まる「野  
見神社」を散策すること  
になった。

10 年  
もたつ  
と、本  
行寺の  
南西の  
歩道の  
中央に  
黄色い  
色を付  
けて歩  
行者の注意を向けさせて  
いた、思索石、も今では歴  
史民族資料館の玄関の前  
に移設されていて、町並  
や風景が変わっているこ  
ともあります。

「こんな事から、単なる散  
策ではなくその町に立ち  
止まり、その町を深く理  
解する「わがまち紹介活  
動」の内容が決まって現  
在も継続している次第で  
す。

（木）、  
松井さ  
んは、  
詳しい



説明資料を準備し、お寺  
では住職さんや歴史資料  
館ではガイドの方をお願



V G 槻輪会長大岡成一